

玉名市内遺跡調査報告書 13

— 令和元年度の調査 —

令和3（2021）年3月

玉名市教育委員会

玉名市内遺跡調査報告書 13

— 令和元年度の調査 —

令和3年（2021）3月

玉名市教育委員会

序 文

玉名市は、熊本県の北西部に位置しており、小岱山や菊池川、有明海といった自然の恩恵を受け、旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、多くの文化財が所在しております。

玉名市教育委員会では、さまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行のため、専門職員の増員を図るなどの体制の充実に努めてまいりました。

公共及び民間の様々な事業に対応するため、市内に所在する文化財の状況把握も常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しています。

本書は、令和元年度に実施した各種開発に伴う確認調査の成果をまとめたものです。

本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、広く教育・文化の発展に寄与できれば幸いに存じます。

令和 3 年 3 月 26 日

玉名市教育委員会

教育長 福島 和義

例 言

1. 本書は、玉名市教育委員会が令和元年度に国庫補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会文化課董父雅史、田熊秀幸が担当した。
3. 本書掲載のトレンチ及び遺構等の実測図は、各担当者が作成した。
4. 遺物の実測は、藤井めい子が行い、一部を北嶋百合子、董父雅史が行った。
5. 遺構実測図および遺物実測図のトースは江見恵留が担当し、一部菊池直樹の協力を得た。
6. 調査時の写真撮影は、董父、田熊が行った。
7. 掲図に使用している座標は、玉名市役所税務課所有の地籍図から転記した。座標値は世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
8. 同じ遺跡内で別地点の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付している。
9. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
10. トレンチの表記は本文中を除き、Tと省略している。
11. 整理作業は玉名市文化財整理室で行った。
12. 本書の執筆は董父が行なった。
13. 本書の編集は江見が担当し、董父が総括した。

本 文 目 次

序文	5 東原遺跡（A 地点）	18
例言	6 春出遺跡（A 地点）	19
本文目次	7 今見堂遺跡	21
挿図目次・写真目次・表目次	8 小町遺跡	23
I 調査の概要	9 春出遺跡（B 地点）	24
1 調査の体制	10 片瀬訪遺跡	27
2 調査の方法	11 東南大門遺跡	30
3 調査総括	12 東原遺跡（B 地点）	32
4 活用	13 清源寺跡	33
II 令和元年度の調査	14 球原遺跡	35
1 扇崎野中遺跡	15 幸長寺遺跡	37
2 玉名平野遺跡群・両迫間日渡遺跡	観察表	
3 吉丸前遺跡	奥付	
4 光尊寺	報告書抄録	

挿図目次

I 調査の概要	
第 1 図 令和元年度調査地位置図	3
II 令和元年度の調査	
第 2 図 扇崎野中遺跡調査地位置図	6
第 3 図 扇崎野中遺跡トレンチ配置図	6
第 4 図 扇崎野中遺跡トレンチ土層柱状図	6
第 5 図 扇崎野中遺跡出土遺物実測図	6
第 6 図 玉名平野遺跡群／ 両迫間日渡遺跡調査地位置図	7
第 7 図 玉名平野遺跡群／ 両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 1	8
第 8 図 玉名平野遺跡群／ 両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 2	8
第 9 図 玉名平野遺跡群／ 両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 3	9
第 10 図 玉名平野遺跡群／ 両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 4	9
第 11 図 玉名平野遺跡群／ 両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 5	9
第 12 図 玉名平野遺跡群／ 両迫間日渡遺跡土層断面図	10
第 13 図 玉名平野遺跡群／ 両迫間日渡遺跡土層断面図	11
第 14 図 玉名平野遺跡群出土遺物実測図	11
第 15 図 吉丸前遺跡調査地位置図	13
第 16 図 吉丸前遺跡トレンチ配置図	13
第 17 図 吉丸前遺跡トレンチ土層柱状図	14
第 18 図 光尊寺調査地位置図	15
第 19 図 光尊寺トレンチ配置図	15
第 20 図 光尊寺トレンチ実測図	16
第 21 図 光尊寺出土遺物実測図	16
第 22 図 東原遺跡（A地点）調査地位置図	18
第 23 図 東原遺跡（A地点）トレンチ配置図	18
第 24 図 東原遺跡（A地点）トレンチ土層柱状図	18
第 25 図 春出遺跡（A地点）調査地位置図	19
第 26 図 春出遺跡（A地点）トレンチ配置図	19
第 27 図 春出遺跡トレンチ柱状図	19
第 28 図 春出遺跡（A地点）遺構配置図	20
第 29 図 春出遺跡（A地点）出土遺物実測図	20
第 30 図 今見堂遺跡調査地位置図	21
第 31 図 春出遺跡トレンチ配置図	21
第 32 図 今見堂遺跡トレンチ土層図	22
第 33 図 小町遺跡調査地位置図	23
第 34 図 小町遺跡トレンチ配置図	23
第 35 図 小町遺跡トレンチ土層図	23
第 36 図 春出遺跡（B地点）調査地位置図	24
第 37 図 春出遺跡（B地点）トレンチ配置図	24
第 38 図 春出遺跡トレンチ実測図	25
第 39 図 春出遺跡出土遺物実測図	25
第 40 図 春出遺跡（B地点）4トレンチ遺構実測図	26
第 41 図 片諺訪遺跡調査地位置図	27
第 42 図 片諺訪遺跡トレンチ配置図	27
第 43 図 片諺訪遺跡トレンチ実測図	28
第 44 図 片諺訪遺跡出土遺物実測図	29
第 45 図 東南大門遺跡調査地位置図	30
第 46 図 東南大門遺跡トレンチ配置図	30
第 47 図 東南大門遺跡出土遺物実測図	30
第 48 図 東南大門遺跡トレンチ柱状図	31
第 49 図 東原遺跡（B地点）調査地位置図	32
第 50 図 東原遺跡（B地点）トレンチ配置図	32
第 51 図 東原遺跡（B地点）トレンチ土層柱状図	32
第 52 図 清源寺跡調査地位置図	33
第 53 図 清源寺跡トレンチ配置図	33
第 54 図 清源寺跡出土遺物実測図	34
第 55 図 清源寺跡トレンチ柱状図	34
第 56 図 塚原遺跡調査地位置図	35
第 57 図 塚原遺跡トレンチ配置図	35
第 58 図 塚原遺跡トレンチ実測図	36
第 59 図 幸長寺遺跡調査地位置図	37
第 60 図 幸長寺遺跡トレンチ配置図	37
第 61 図 幸長寺遺跡トレンチ柱状図	37

写真目次

I 調査の概要	
写真 1 調査前の現地協議	2
II 令和元年度の調査	
写真 2 レンチ掘削状況	2
写真 3 レンチ調査状況	2
写真 4 整理作用状況	2
写真 5 扇崎野中遺跡調査地状況（西から）	6
写真 6 玉名平野遺跡群 1147 番地	
写真 7 玉名平野遺跡群 1147 番地	
調査状況（北から）	12
遺構検出状況（西から）	12

写真8 玉名平野遺跡群 1147番地		写真32 小町遺跡調査前状況（西から）	23
調査状況（北東から）	12	写真33 春出遺跡（B地点）調査前状況（北東から）	24
写真9 玉名平野遺跡群 1147番地		写真34 春出遺跡1トレンチ調査状況（西から）	26
調査状況（南東から）	12	写真35 春出遺跡4トレンチ埋設土器	
写真10 玉名平野遺跡群 1137番地		出土状況（北から）	26
調査状況（西から）	12	写真36 片瀬訪遺跡調査地遠景（北東から）	29
写真11 玉名平野遺跡群 1137番地		写真37 片瀬訪遺跡調査地トレンチ	
調査状況（西から）	12	掘削状況（北から）	29
写真12 玉名平野遺跡群 1137番地		写真38 片瀬訪遺跡1トレンチ調査状況（南から）	29
調査状況（西から）	12	写真39 片瀬訪遺跡4トレンチ	
写真13 玉名平野遺跡群 1137番地		遺構検出状況（北から）	29
調査状況（西から）	12	写真40 東南大門遺跡調査前状況（西から）	31
写真14 吉丸前遺跡調査前状況（西から）	13	写真41 東南大門遺跡3トレンチ	
写真15 吉丸前遺跡確認調査トレンチ		調査状況（北から）	31
掘削状況（西から）	14	写真42 東南大門遺跡6トレンチ	
写真16 吉丸前遺跡1トレンチ調査（東から）	14	調査状況（西から）	31
写真17 吉丸前遺跡2トレンチ全景（東から）	14	写真43 東南大門遺跡7トレンチ	
写真18 吉丸前遺跡土層確認地点1		調査状況（西から）	31
調査状況（北から）	14	写真44 東原遺跡（B地点）調査状況（西から）	32
写真19 光尊寺調査前状況（西から）	15	写真45 清源寺跡調査状況（北から）	33
写真20 光尊寺1トレンチ調査状況（東から）	16	写真46 清源寺跡1トレンチ	
写真21 光尊寺2トレンチ調査状況（南から）	16	土層堆積状況（東から）	34
写真22 光尊寺1トレンチ調査状況（東から）	16	写真47 清源寺跡2トレンチ	
写真23 光尊寺1トレンチ		調査状況（西から）	34
土間検出状況（南から）	17	写真48 清源寺跡3トレンチ	
写真24 光尊寺1トレンチ土層堆積状況（南から）	17	土層堆積状況（東から）	34
写真25 東原遺跡（A地点）調査地（東から）	18	写真49 清源寺跡4トレンチ	
写真26 春出遺跡（A地点）調査地（南から）	20	調査状況（北東から）	34
写真27 春出遺跡（A地点）調査状況（南から）	20	写真50 塚原遺跡1・2トレンチ	
写真28 今見堂遺跡37トレンチ		調査状況（南から）	35
調査状況（南から）	22	写真51 塚原遺跡665-1番地調査状況（北から）	36
写真29 今見堂遺跡43トレンチ		写真52 塚原遺跡665-1番地	
調査状況（北から）	22	調査状況（北から）	36
写真30 今見堂遺跡51トレンチ		写真53 塚原遺跡663番地調査状況（東から）	36
調査状況（南東から）	22	写真54 塚原遺跡5トレンチ	
写真31 今見堂遺跡53トレンチ		遺構検出状況（南から）	36
調査前状況（西から）	22	写真55 幸長寺遺跡調査地状況（北から）	37

表 目 次

第1表 令和元年度試掘確認調査一覧 4 第2表 令和元年度出土遺物観察表 38

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。

令和元年度（確認調査・整理作業）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一

調査総括 教育部長 西村則義

文化課長 松田智文

課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 薩父雅史

調査担当 主査 薩父雅史

主任 田熊秀幸

発掘作業員 陶山哲士、中島明子

整理作業員 坂崎郷子、早川イツエ、藤井めい子、

北嶋百合子、五野富美子

令和2年度（報告書作成）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一（令和2年12月3日まで）

教育長 福島和義（令和2年12月4日から）

調査総括 教育部長 西村則義

文化課長 伊藤恵浩

課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 薩父雅史

報告書担当 主査 薩父雅史

整理調査員 江見恵留

発掘作業員として従事されていた中島明子さんが、令和2年10月に突然亡くなられた。中島さんは市の発掘調査に長く従事され、調査員も頼りにしている存在でした。この場を借りて改めて感謝を申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

2 調査の方法

試掘確認調査については、 $0.13 \sim 0.28\text{m}^2$ のバッケホーを使用して、 $0.7 \sim 1\text{ m}$ 程度のトレーナチを掘削しており、包含層や遺構の一部については人力掘

削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準を定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。実測図は、1/20スケールを基本として、平断面図を作成し、一部で三次元計測を行っている。トレーナチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。

写真は、一眼レフデジタルカメラを用いており、重要な遺構、遺物が確認された場合は、フィルムによる撮影を行うようしている。

3 調査総括

玉名市では、平成11年度から、国・県の補助を受け、開発行為に伴い各種調査を実施している。

令和元年度における届出等の件数は、文化財保護法第93条による届出74件、94条による通知9件、調査依頼が4件であり、その内15件で確認調査、うち1件（春出遺跡）が発掘調査となった。この発掘調査については、令和元年度に原因者負担で実施しており別途報告書を刊行する予定である。

全体的に確認調査件数のほとんどが、規模の大小に関わらず民間事業に起因するものであった。

公共事業に伴う確認調査は3件で、新玉名駅周辺開発や市道拡幅に伴うものであった。

新玉名駅周辺開発に伴う確認調査は、約35,374m²の対象地に対して、合計102本のトレーナチを設定して行った。そのうち、駅舎北側の一部において古墳時代から中世と考えられる水田跡が検出された。主な遺構は畦畔であり、河川氾濫に伴う砂が堆積して保護された部分のみに遺構が残存している状況であった。遺物がほとんど出土しないため、明確な時期は不明である。この遺構が検出された地点において開発が計画され、工事が埋蔵文化財に影響を及ぼす場合は発掘調査となる可能性が高いが、現在のところまだ具体的な計画は進んでいない。

民間開発関係では、共同住宅に伴うものが3件あり、他は分譲地の宅地造成に伴うものが多かった。近年は共同住宅建設に伴う調査が増加している傾向にある。玉名市片瀬諭に所在する片瀬諭遺跡では、南北方向の溝状遺構が検出された。この溝は、現在

の市道と並行しており、北側に所在する中世の伊倉城跡に関連する可能性がある。その他、多くの柱穴や土坑が検出された。また、玉名市高瀬に所在する清源寺跡においても、台地の縁に沿った落ち込みが検出され、古代以降の遺物が出土している。この落ち込みは、調査区の制限があって全体の把握が困難であったが、高台上にあった中世の保田木城跡や清源寺跡に伴う掘の可能性がある。

宅地造成に伴う調査も多く、分譲地に伴うものが増えている。玉名市中に所在する春出遺跡では、绳文時代晚期の土器埋設構が1基検出された。円形の土坑から古闕式とみられる深鉢が埋設された状態で出土し、その他多くのピット群が検出された。

玉名市高瀬に所在する光尊寺においては、納骨堂建設に伴う確認調査を行い、近世以降の町屋と考えられる建物跡が検出された。礎石などはトレンチ内では検出できなかったが、旧土間面が3層にわたって確認され、何度か建て替えが行われていた痕跡があった。現在の光尊寺に保管されている寛政12年(1800)の絵図にも、当該地には町屋が2棟南北に並んで建っていたことが記されていた。

調査依頼に伴い確認調査を行った玉名市岱明町野口の塚原遺跡においては、2地点のいずれにおいても遺構が検出された。遺物片から弥生時代後期を中心とみられ、西側の市道岱明玉名線建設に伴う発掘調査区と同様に北東側まで集落の広がりがあるものと考えられる。

4 活用

玉名市では、開発行為に伴う試掘確認調査の結果を年度ごとに報告書として刊行しているが、その成果は市立博物館こころビアにおいて2年に1回の割合で発掘速報展を開催している。令和元年度は開催年ではなかったが、「埋蔵文化財を守るために」、「埋蔵文化財Q&A」といった内容のプリントや各遺跡の発掘成果をまとめた概要版のリーフレットを独自に作成し、博物館や文化課の窓口で配布するなど啓発を行っている。発掘調査を行った際は、なるべく現地説明会を行うように努め、今後は調査成果の報告会なども行っていきたい。



写真1 調査前の現地協議



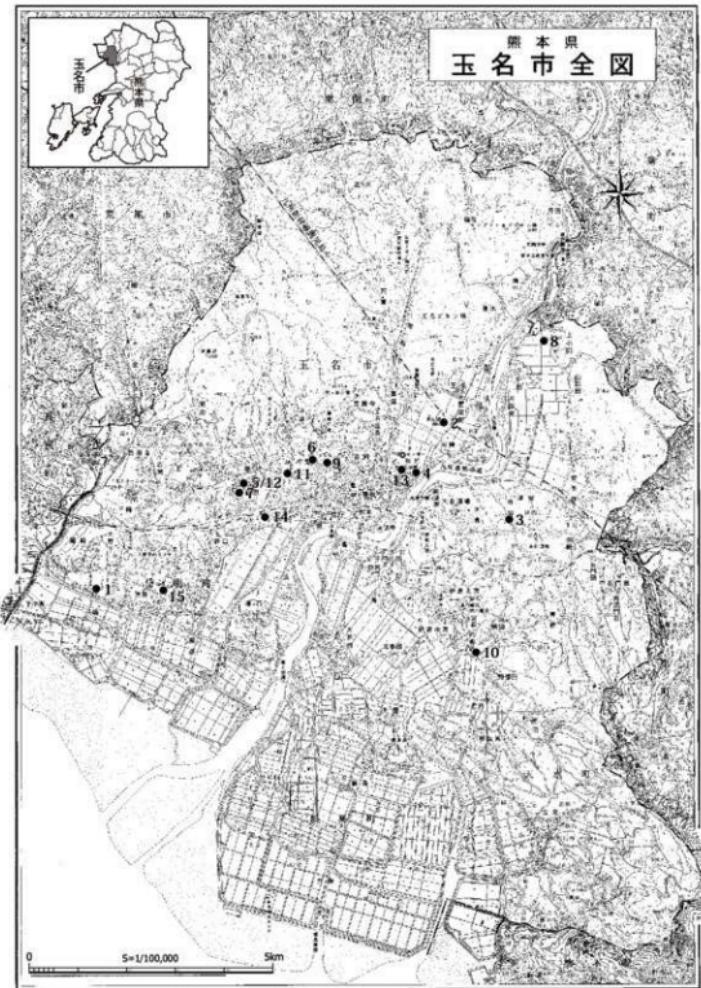
写真2 トレンチ掘削状況



写真3 トレンチ調査状況



写真4 整理作業状況



- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1 犀崎野中遺跡 | 6 春出遺跡 (A地点) | 12 東原遺跡 (B地点) |
| 2 玉名平野遺跡群 | 7 今見堂遺跡 | 13 清源寺跡 |
| ・両追間日渡遺跡 | 8 小町遺跡 | 14 球原遺跡 |
| 3 吉丸前遺跡 | 9 春出遺跡 (B地点) | 15 幸長寺遺跡 |
| 4 光尊寺 | 10 片瀬訪遺跡 | |
| 5 東原遺跡 (A地点) | 11 東南大門遺跡 | |

第1図 令和元年度調査地位置図

I 調査の概要

第1表 令和元年度試掘確認調査一覧

	道路名	調査地	敷地面積 (m ²)	種別	調査原因	調査期日	調査者	措置
1	扇崎野中道路	岱明町扇崎 38-1.38-4 外	388.71	確認調査	専用住宅	平成31年4月6日	田熊秀幸	慎重工事
2	玉名平野道路群・ 両追間日渡道路（第1次）	玉名 1133-1	35,374	調査依頼	新駅周辺 整備	令和元年 5月 10日 ～ 5月 13日	齋父雅史	—
	玉名平野道路群・ 両追間日渡道路（第2次）	玉名 558,359,362-1 外				令和元年 5月 14日 ～ 5月 21日		
	玉名平野道路群・ 両追間日渡道路（第3次）	玉名 1144,1145,1146 外				令和元年 11月 13日 ～ 11月 20日		
	玉名平野道路群・ 両追間日渡道路（第4次）	玉名 273-1,274-1 外				令和元年 11月 26日 ～ 11月 29日		
	玉名平野道路群・ 両追間日渡道路（第5次）	玉名 1509-1,1510-1, 1511 外				令和元年 12月 4日 ～ 12月 11日		
	柳町道路	両追間 364-1 外				令和元年 12月 16日 ～ 12月 20日		
	玉名平野道路群・ 両追間日渡道路（第6次）	玉名 1548-1,1627-1 外				令和2年 1月 14日 ～ 1月 17日		
3	吉丸前道路	寺田字吉丸前地内	720	確認調査	道路	令和元年 6月 10日 ～ 6月 11日	田熊秀幸	工事立会
4	光澤寺	高瀬保田木 76,77,78,80-1	1853.56	確認調査	納骨堂	令和元年 6月 19日	齋父雅史	工事立会
5	東原道路（A地点）	渠地 138-3,106-4 外	1759.78	確認調査	店舗用倉庫	令和元年 6月 25日	田熊秀幸	慎重工事
6	春出道路（A地点）	中字徳丸 1460-1	489	確認調査	共同住宅	令和元年 7月 8日	田熊秀幸	発掘調査
7	今見堂道路（第1次）	渠地 308-1,309- 1,323-2 外	13,503.85	調査依頼	消防署	令和元年 7月 29日 ～ 7月 30日	齋父雅史	慎重工事
	今見堂道路（第2次）	岱明町下前原 309-1				令和元年 9月 10日		
	今見堂道路（第3次）	岱明町下前原 220				令和元年 10月 16日		
8	小町道路	上小田小町地内	720	確認調査	道路	令和元年 8月 21日(1回目) 令和元年 10月 23日(2回目)	齋父雅史	慎重工事
9	春出道路（B地点）	中字 2040-1	550	調査依頼	宅地造成	令和元年 9月 4日	齋父雅史	—
10	片瀬訪道路	片瀬訪字屋敷 87-1	942.51	確認調査	共同住宅	令和元年 9月 30日、 10月 1日,10月 7日	齋父雅史	工事立会
11	東南大門道路	渠地字南大門 2122-2 外	2213.19	確認調査	宅地造成	令和元年 11月 7日 ～ 11月 8日	齋父雅史	工事立会
12	東原道路（B地点）	渠地字市場 103,106-1	2024.52	確認調査	店舗	令和元年 11月 26日	田熊秀幸	慎重工事
13	清源寺跡	高瀬 93-1 の一部 94-2	679.42	確認調査	共同住宅	令和元年 12月 11日	田熊秀幸	工事立会
14	塚原道路	岱明町野口字塚原 665-1,663	1191	調査依頼	運動場	令和2年 3月 2日～ 3日	齋父雅史	—
15	幸長寺道路	岱明町浜田字八幡 101-1	2040	確認調査	宅地造成	令和2年 3月 11日	齋父雅史	慎重工事

II 令和元年度の調査

1 扇崎野中遺跡

所在地：玉名市岱明町扇崎中西 38-1,38-4 外

調査原因：専用住宅

対象面積：388.71m²

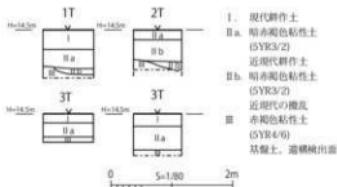
調査日：平成 31 年 4 月 6 日

調査者：田熊秀幸

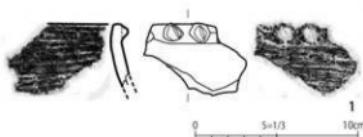
調査地は、友田川左岸の低丘陵上に位置する、標高約 13m の地点にあたる。北側には掘や土塁に囲まれた「扇崎要害の森館跡」が所在し、西側は深い谷となっている。よって当該丘陵は西へ緩やかに傾斜しており、近代以降の耕作地化に伴い、東側隣接地と 1.5m 程度の比高差が生じている。

建物予定地内の 3 か所においてトレーナーを設定し、埋蔵文化財の状況を確認したところ、いずれの地点においても、土層は I 層（現耕作土）、II 層（近現代耕作土）、III 層（赤褐色粘性土・基盤土）の堆積が認められた。明確な遺構は確認されなかったが、耕作土中から、縄文時代晩期の刻目突帯文土器片 1 点が検出された。

敷地内は、耕作地化の際に基盤土まで削平を受けたとみられ、埋蔵文化財が残存する可能性は低いと考えられる。工事の内容は、専用住宅の新築工事であり、基礎の掘削深度は 20cm、外周部 34cm となるが、確認調査の結果から、慎重工事となった。



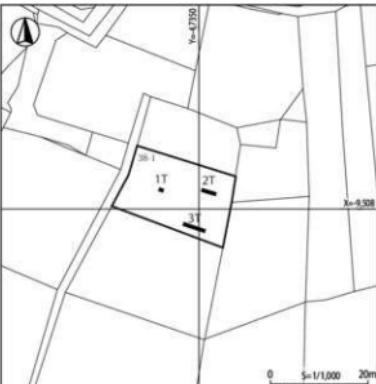
第 4 図 扇崎野中遺跡トレーナー柱状図



第 5 図 扇崎野中遺跡出土遺物実測図



第 2 図 扇崎野中遺跡調査地位置図



第 3 図 扇崎野中遺跡トレーナー配置図



写真 5 扇崎野中遺跡調査地状況（西から）

2 玉名平野遺跡群・両迫間日渡遺跡

所在地：玉名市玉名 1133-1, 両 358,359,362-1 外

調査原因：新玉名駅周辺整備事業に伴う開発

対象面積：35,374m²

調査日：令和元年5月10日から開始

令和2年1月17日まで継続

調査者：董父雅史

調査地は、菊池川右岸の平野部に位置する、標高約5mの地点にある。

南側の玉名バイパス建設の際には、平成6年度から平成12年度にかけて柳町遺跡の発掘調査が行われ、古墳時代から古代を中心とした集落跡や自然流路などが検出され、多量の土器、木製品と共に青銅鏡、木製短甲などが出土している。また、新幹線



第6図 玉名平野遺跡群／両迫間日渡遺跡調査地位図



第7図 玉名平野遺跡群／両迫間日渡遺跡トレント配置図1



第8図 玉名平野遺跡群／両迫間日渡遺跡トレント配置図2

駅前整備に伴い実施された両迫間日渡遺跡の発掘調査では、古墳時代中期の祭祀遺構が検出され、多くの滑石製品、ミニチュア土器などが出土している。

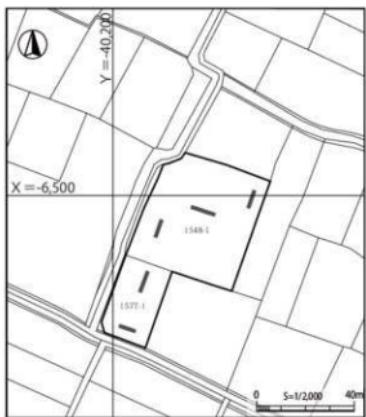
本年度は調査依頼に基づいて、新玉名駅の北側で31本、南側で71本の合計102本のトレントを設定し、数回に分けて確認調査を実施した。

その結果、基本土層は、I a, I b層が近代から現代の耕作土、II a～II c層が黄褐色砂質土で近世の耕作土、III a～III c層が褐色粘性土で基本的に中世と考えられる。IV a～VI cまでは粘性土であり、遺物をほとんど含まないため、明確な時期は不明であるが、近隣の調査成果などからIV層～V層までは弥生時代から古代までの層とみられる。

確認調査の結果、遺構が検出されたのは新玉名駅北側の一部のみ（1133-1, 1136-1, 1137-1, 1147番地）であった。III層下位に堆積している砂層下に水跡跡が残存している状況である。畦畔状に盛り上がっている部分と浅い溝状に落ち込む部分が検出された。遺物の混入は認められなかったが、堆積状況から二面（二時期）あるものと考えられ、下層が弥生時代から古墳時代とみられる。

その他のトレントでは、遺構は確認できず、遺物はI～III層までに弥生土器片や中世の瓦器片、近世の陶磁器片等が混入する程度であった。土層堆積や水分の状況から、沼地であったみられる部分もあり、暗渠排水技術が導入された近代以降に耕作地化されたところもあるようである。

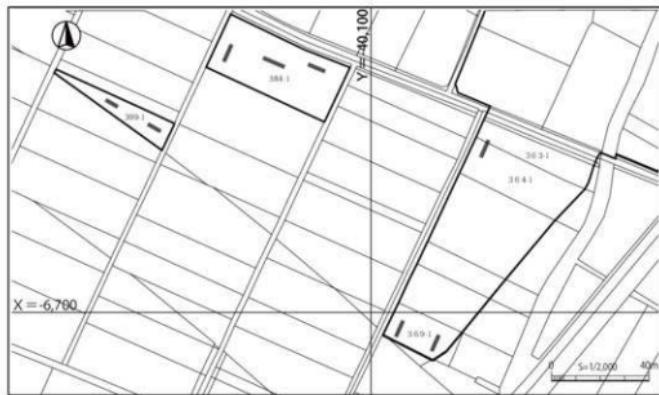
埋蔵文化財が確認された一部の範囲においては発掘調査の可能性が高いものと考えられるが、現在のところ開発計画は具体化されていない。



第9図 玉名平野遺跡群／両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 3

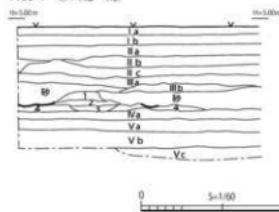


第10図 玉名平野遺跡群／両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 4



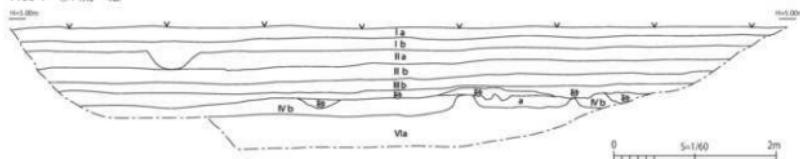
第11図 玉名平野遺跡群／両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 5

1133-1 ③T(北一南)

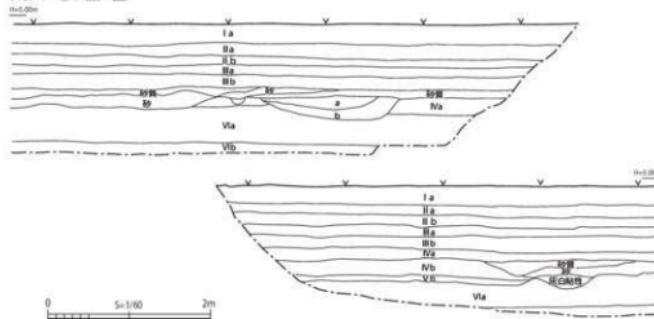


- IVa. 黄オリーブ色粘性土 (3V4/2)。しまり、粘性やや強い。部分的にマンガンを含む。
IVb. 黄オリーブ色粘性土 (3V3/3)。しまり、粘性弱い。
Va. 黒色粘性土 (5V2/1)。しまり弱いが粘性強い。全体で暗く、黒色が強い耕作土。
Vb. オリーブ黑色粘性土 (5V3/1)。しまり弱いが粘性強い。
Vc. オリーブ黑色粘性土 (5V3/2)。しまり弱いが粘性やや強い。
VIa. 青灰粘性土 (5BG5/1)。しまり弱い。水分を含む。
VIb. 喀灰粘性土 (5BG4/1)。しまり弱い。水分を含む。
VIc. 青灰粘性土 (10BG4/1)。しまり弱い。水分を含む。

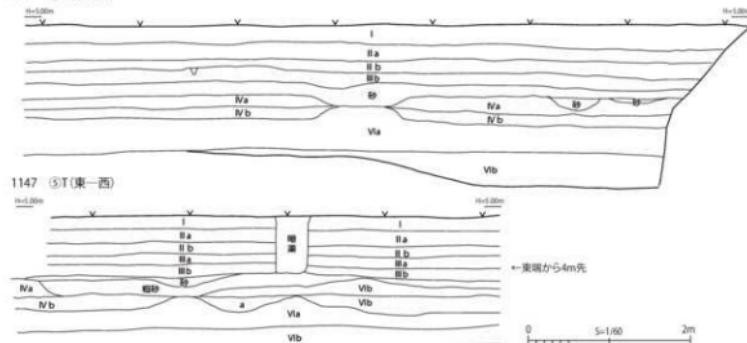
1136-1 ②T(南一北)



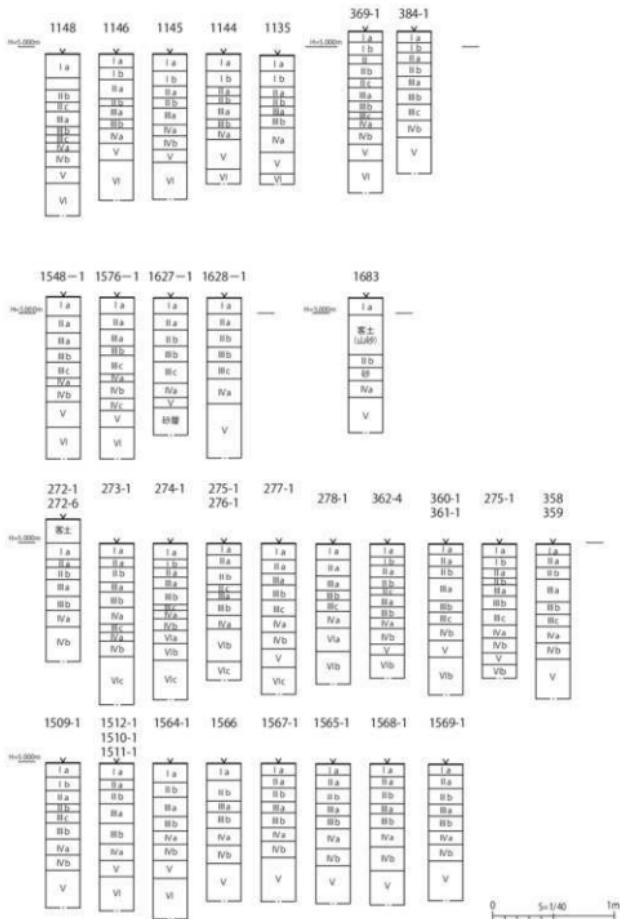
1137-1 ③T(東一西)



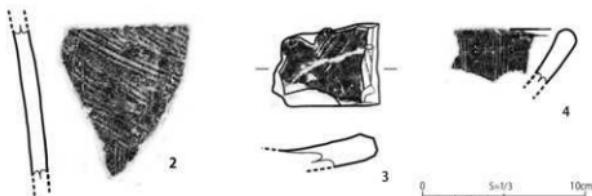
1147 ④T(東一西)



第12図 玉名平野遺跡群／両辺間日渡遺跡土層断面図



第13図 玉名平野遺跡群／両追間日渡道路土層断面柱状図



第14図 玉名平野遺跡群出土物実測図



写真6 玉名平野遺跡群 1147番地調査状況（北から）



写真7 玉名平野遺跡群 1147番地遺構接出状況（西から）



写真8 玉名平野遺跡群 1147番地調査状況（北東から）



写真9 玉名平野遺跡群 1147番地調査状況（南東から）



写真10 玉名平野遺跡群 1137番地調査状況（西から）



写真11 玉名平野遺跡群 1137番地調査状況（西から）

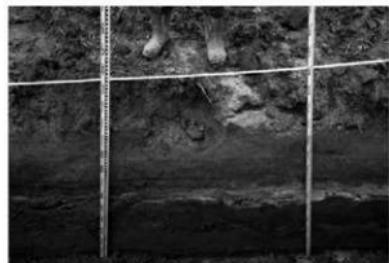


写真12 玉名平野遺跡群 1137番地調査状況（西から）

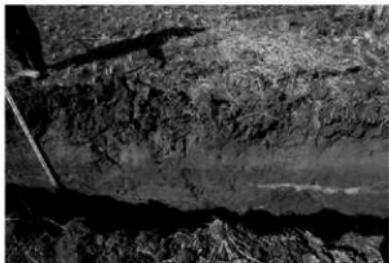


写真13 玉名平野遺跡群 1137番地調査状況（西から）

3 吉丸前遺跡

所在地：玉名市寺田字吉丸前地内

調査原因：道路（市道寺田山口吉丸線）

対象面積：720m²

調査日：令和元年6月10日～11日

調査者：田熊秀幸

調査地は、菊池川左岸の台地上に位置する、標高約43mの地点であり、現況は市道及び畠地となっている。

平成13年～15年度には、西側に隣接する玉名バイパスの建設に際して発掘調査が実施されており、中世の館跡に伴う空堀状遺構等が確認されている。周辺の地形から、「日」の字型に掘が巡るものと想定されている。

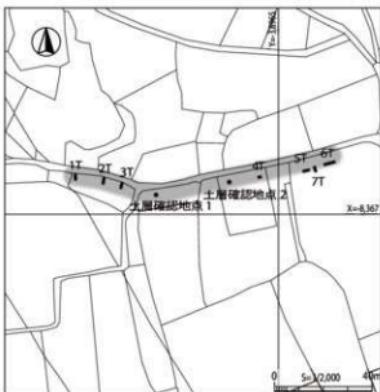
当調査では、道路拡幅部分に7か所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、1～3トレンチでは、耕作土層（I・II層）の下に近世・近代の遺物を含む粘性土層（III・IV層）、暗褐色粘性土層（V層）、基盤土（VI層）が確認され、基盤土が南東から北西方向へ下っている状況が認められた。4トレンチでは、表土直下に基盤土が認められた。5トレンチでは、1～VI層の堆積が認められたほか、基盤土上に近代の畝状プランを検出した。6・7トレンチでは、地表下1mまで擾乱が及んでいたが、聞き取りによると法面が崩れた時に復旧工事を行ったとのことである。また、土層確認1においても、法面復旧に伴う擾乱が確認された。土層確認2地点では、表土直下に基盤土層が認められた。特に、1～3トレンチ部分は、掘跡の可能性があるが、掘の埋土で中世の堆積はV層のみになり、浅く、遺物もほとんど混入しない。

工事の内容は、市道の拡幅工事であり、確認調査の結果、明確な埋蔵文化財は認められなかったものの、V層の掘削もするため工事立会となった。その後、工事立会を実施したが、掘りの落ち込みプランなどの明確な遺構は検出されず、遺物も全く含まれない状況であった。



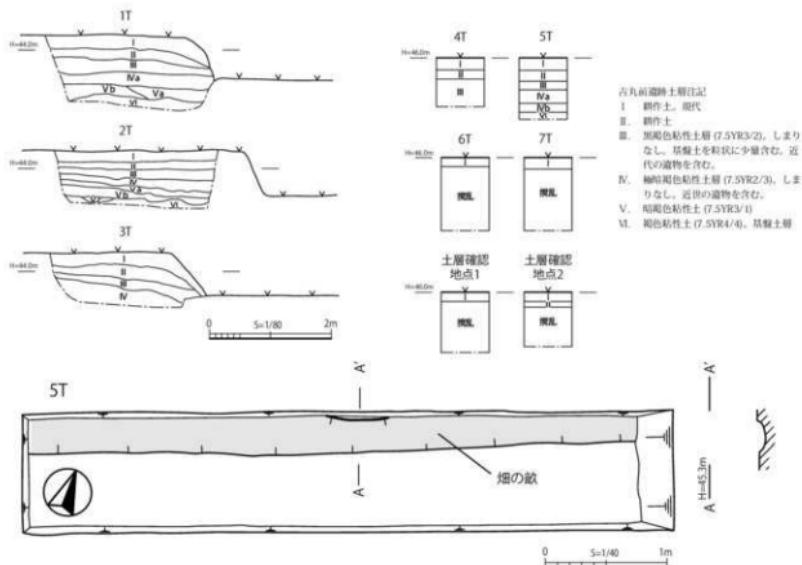
第15図 吉丸前遺跡調査地位置図



第16図 吉丸前遺跡トレンチ配置図



写真14 吉丸前遺跡調査前状況（西から）



第17図 吉丸前遺跡トレンチ土層柱状図



写真15 吉丸前遺跡確認調査トレンチ掘削状況（西から）



写真16 吉丸前遺跡1トレンチ調査（東から）



写真17 吉丸前遺跡2トレンチ全景（東から）



写真18 吉丸前遺跡土層確認地点1調査状況（北から）

4 光尊寺

所在地：玉名市高瀬字保田木 76,77,78,80-1

調査原因：寺院（納骨堂）

対象面積：1853.56m²

調査日：令和元年6月19日

調査者：董父雅史

調査地は、菊池川右岸に位置する、標高約8mの地点である。現況は寺院の境内となっており、西側は駐車場として利用されている。

建物予定地内は、一部がアスファルト舗装されているため、掘削が可能な北西側において2本のトレンチを設定し、確認調査を実施した。

基本土層は、現代の整地層（I a・I b層）、近世の遺物を含む層（II～IV b層）、暗褐色粘性土層（V a・V b層）、砂層（VI層・河川氾濫に伴う層）であった。また、I b層～IV a層までの間には近世期の建物に伴う整地面（土間面）が3層（A～C層）が認められた。この整地層は土間とみられ、石灰や砂などが混ざり、叩き締められていた。2トレンチでは、II層上面から焼土粒や灰を多量に含む層（①層）が認められたが、遺物を含まないため明確な時期は不明である。記録によると当地は西南戦争による火災被害は受けていないため、この焼土層は、それ以外の理由が考えられる。

光尊寺に残る絵図（寛政12年）によると、トレンチを設定した位置には町屋が2棟建っていたことが記録されている。1トレンチで検出した複数の土間面から、何度か建て替えが行われていた可能性がある。また、遺物としては江戸時代後期から末期の陶磁器（蕎麦猪口、碗など）や近代のガラス製品（化粧瓶、眼薬など）が出土した。

工事の内容は、寺院に伴う納骨堂の新築であり、基礎の掘削は最深部で約1m、杭も入る計画であった。しかし、その後の協議によって、建築面積も縮小されるなど設計変更が行われたため、工事立会となつた。その後の工事立会においては、同様の土層が確認された。



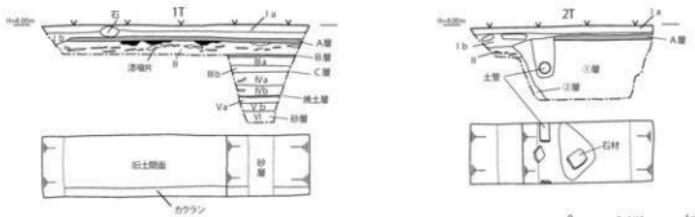
第18図 光尊寺調査地位置図



第19図 光尊寺トレンチ配置図



写真19 光尊寺調査前状況（西から）



光尊寺土解説記

- I T
- I a. 砂石層
- I b. 整地層 以前の建物解体時・現地
- II. 黄褐色土 (7.5YR4/3) しまり弱く、粘性弱く、黄褐色粘性土を含む。
漆喰片を含む。埴土料、砂粒少量含む。
- IIIa. 灰黃褐色土 (10YR5/2) ややしまり強い、粘性なし。砂粒多量含む。
- IIIb. ぶるい黄褐色土 (10YR5/3) しまり弱い、粘性なし。砂粒少量含む。
- IVa. 黄褐色土 (10YR4/1) しまり弱い、粘性なし。埴土料、砂粒少量含む。
漆喰片少量含む。瓦片混入。
- IVb. 黄褐色土 (10YR4/1) しまり弱い、粘性なし。砂粒、埴土、灰化物少量含む。瓦片混入。
- Va. 黑褐色土 (10YR3/2) しまり弱い、やや粘性あり。灰化物、砂粒少量含む。
- Vb. 明褐褐色土 (10YR3/3) しまり弱い、やや粘性あり。砂粒少量含む。
- VI層 砂層

A層 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強い。旧土間面と考えられる。

B層 灰色土 (5YR4/1) しまり強い。旧土間面と考えられる。

C層 褐色土 (7.5YR7/6) しまり強い。旧土間面と考えられる。

埴土層 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 漆喰片、灰化物
混入。

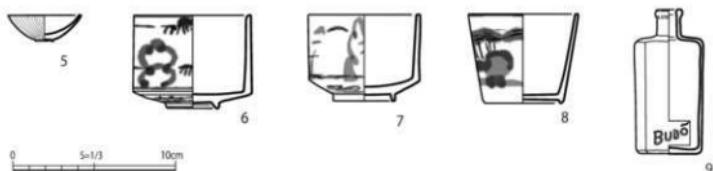
2T

- 1a. 砂石層
- 1b. 整地層 以前の建物解体時・現地
- II. 黄褐色土 (7.5YR4/3) しまり弱く、粘性弱く。黄褐色粘性土を含む。
漆喰片を含む。埴土料、砂粒少量含む。

① 黄褐色土 (2.5YR4/1) しまりなく、やや粘性なし。全体的に埴土料を含む灰層
であり、火災後の整地層か。

② 明褐褐色土 (7.5YR5/6) しまりなく、やや粘性あり。古土とみられる。

第20図 光尊寺トレーンチ実測図



第21図 光尊寺出土遺物実測図



写真20 光尊寺1トレーンチ調査状況（東から）



写真21 光尊寺2トレーンチ調査状況（南から）



写真22 光尊寺1トレンチ調査状況（東から）



写真23 光尊寺1トレンチ土間検出状況（南から）



写真24 光尊寺1トレンチ土層堆積状況（南から）

5 東原遺跡（A地点）

所在地：玉名市築地 138-3,106-4 外

調査原因：店舗用倉庫

対象面積：1759.78m²

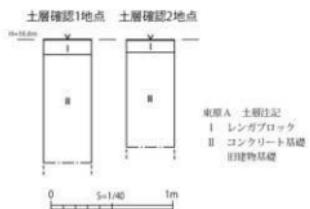
調査日：令和元年 6月 25 日

調査者：田熊秀幸

調査地は、境川右岸の台地上に位置する、標高約17mの地点である。東側には大原遺跡、北東側には東南大門遺跡などが所在しており、一帯は弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての遺跡が最も集中している地域である。

当敷地内には以前から店舗が建てられており、駐車場部分はアスファルト舗装され、一部はレンガブロック敷きとなっていた。

建物予定地においてトレンチを設定し、土層を確認したところ、おおむね現地表下1mまでは以前の建物基礎が残存しており、全体的に擾乱を受けている状況であった。遺物の混入も認められなかった。工事の内容は、店舗に伴う倉庫の新築であり、基礎の最大掘削深度は1mであるが、擾乱層中に収まるため埋蔵文化財に対する影響はないものと判断される。よって、その後の処置は慎重工事となった。



第24図 東原遺跡（A地点）トレンチ土層柱状図



第22図 東原遺跡（A地点）調査地位置図



第23図 東原遺跡（A地点）トレンチ配置図



写真25 東原遺跡（A地点）調査地（東から）

6 春出遺跡（A地点）

所在地：玉名市中字 1460-1

調査原因：共同住宅

対象面積：489m²

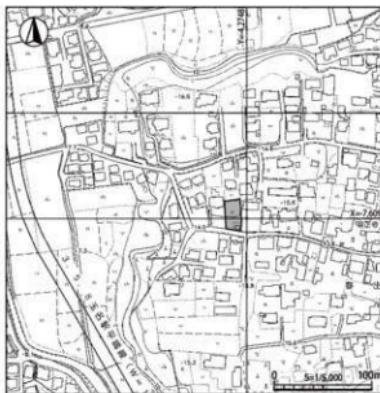
調査日：令和元年 7月 8日

調査者：田熊秀幸

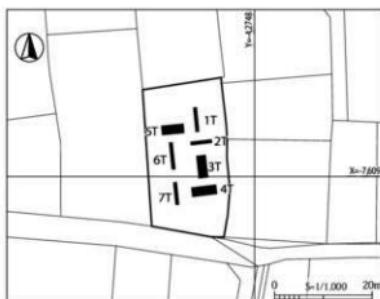
調査地は、境川左岸の低丘陵上に位置する、標高約 16m の地点である。敷地内には資材小屋が 1 棟建ち、以前は畠として利用されていたが、耕作が放棄された後は笹が生い茂る荒蕪地となっていた。

確認調査は、共同住宅の建設範囲と駐車場で切土が発生する範囲において、7か所のトレンチを設定して実施した。その結果、いずれのトレンチにおいても、表土層（Ⅰ層）直下に黄褐色粘性土の基盤土層（Ⅲ層）を認めた。Ⅲ層上面が遺構検出面であり、1 トレンチから中世の柱穴を検出したほか、5・6 トレンチからは時期不明の 2 基を検出した。土層確認地点では、Ⅲ層直上に赤褐色粘性土層（Ⅱ層）と柱 1 基を認めた。遺物は、土坑内の上層から縄文時代早期の押型文土器片が 1 点出土したが、直接遺構に伴うというよりは、埋没する過程で周辺からの流れ込みと考えられる。しかし、近隣に縄文時代早期の遺跡が存在することを示唆している。玉名市内では、これまで岩崎や青野などで出土例がある。

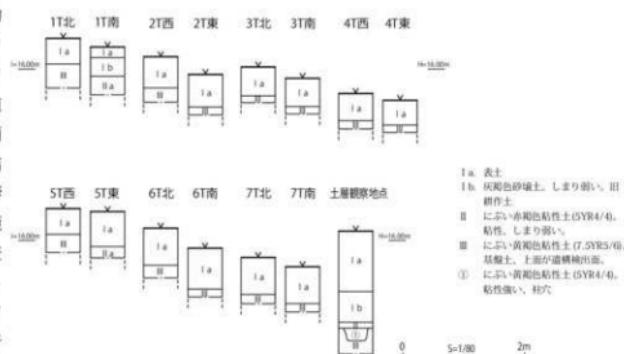
工事の内容は共同住宅の新築であり、建物部分は約 70cm の深さまで地盤改良が施され、駐車場部分は市道の高さまで切土が計画されている。協議の結果、埋蔵文化財に影響を及ぼす 277.5m² の範囲については発掘調査を実施することとなった。この成果については、別途報告書を刊行する予定である。



第25図 春出遺跡（A地点）調査位置図



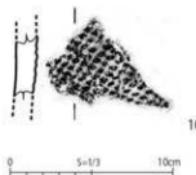
第26図 春出遺跡（A地点）トレンチ配置図



第27図 春出遺跡（A地点）トレンチ柱状図



第28図 春出遺跡（A地点）遺構配置図



第29図 春出遺跡（A地点）出土遺物実測図



写真26 春出遺跡（A地点）調査地（南から）



写真27 春出遺跡（A地点）調査状況（南から）

7 今見堂遺跡

所在地：玉名市築地 309 外

調査原因：消防署（玉名消防署統合庁舎建設）

対象面積：13503.85m²

調査日：令和元年 7 月 29 日から開始

令和元年 10 月 16 日まで継続

調査者：董父雅史

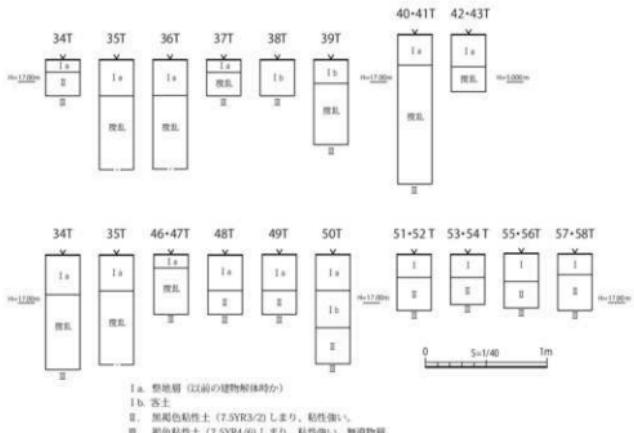
調査地は、境川右岸の丘陵上に位置する標高約 17m の地点で、現況は宅地及び畠となっている。

敷地内に消防署の建設が計画されたため、調査依頼に基づいて平成 29 年度から令和元年度にかけて合計 58 か所のトレンチを設定して確認調査を実施してきた。なお、これまでの調査成果については別途報告書を刊行している。当年度の調査範囲は、北側の県道沿い（トレンチ 18 か所）と、中央を横断する市道南側隣接地（トレンチ 8 か所）の 2 地点である。北側は、以前から店舗が建っていたためか、解体時の擾乱が著しい状況であり、南側においても埋蔵文化財は確認されなかった。

これによって、対象地全域の確認調査が完了したことになるが、全体的な結果として、溜池状の痕跡や倒木痕が認められたのみで、明確な遺構や遺物は確認されなかった。この理由について、旧地形が深い谷状になっており、水が少々湧きやすい土地であり、北東側に所在する今見堂遺跡は南側までは広がっていなかったことなどが考えられる。戦後以降の航空写真を見ても、国道 208 号線が新設されるまで集落も形成されず、池や畠が点在し野原が広がっている状況であったことがわかる。

工事の内容は、消防署の建設であり、訓練棟や倉庫、調整池などが新設される計画であるが、これら確認調査の結果から慎重工事となった。





第32図 今見堂遺跡トレンチ土層図



写真28 今見堂遺跡37トレンチ調査状況（南から）



写真29 今見堂遺跡43トレンチ調査状況（北から）



写真30 今見堂遺跡51トレンチ調査状況（南東から）



写真31 今見堂遺跡53トレンチ調査前状況（西から）

8 小町遺跡

所在地：玉名市上小田字小町地内

調査原因：市道（上小田下5号線）改良工事

対象面積：720m²

調査日：令和元年 8月 21日（1回目）

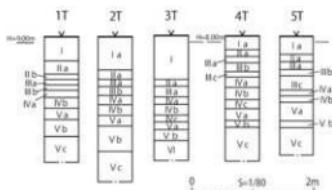
令和元年 10月 23日（2回目）

調査者：董父雅史

調査地は、菊池川左岸の玉名平野北東部に位置する標高約9mの地点であり、現況は水田及び畠地となっている。

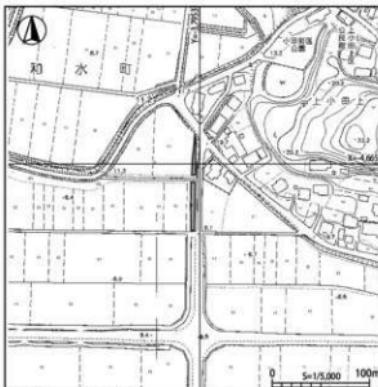
工事予定地内に5か所のトレーニングを設定して確認調査を実施した。その結果、土層はI層が客土、IIa層が現代耕作土、IIb層～IIIc層が砂質土層、IVa層～Vc層が粘性土層、VI層が黄褐色粘性土層であり、いずれのトレーニングにおいても埋蔵文化財は確認されなかった。

工事内容は、市道の拡幅工事である。アスファルト舗装の改修も計画されているが、舗装の改修については現道路敷内であり、掘削も現路盤部に収まる程度のものである。また、拡幅部分は基本的に盛土されるが、法留ブロック及びU字型水路、集水槽の新設部分、暗渠排水路の切り替えなどで切土が発生する。しかし、確認調査の結果から、埋蔵文化財が確認されなかったため、慎重工事となった。



- I. 客土 (山砂含む) #1～#3Tのみ
- IIa. 水田耕作土
- IIb. 灰色土 (2.5YR5/1) しまり弱く、粘性なし。近代耕作土。
- IIc. 黄褐色土 (2.5YR5/4) しまり弱く、粘性なし。旧耕作土。
- IIIa. 基礎土 (10YR3/4) しまり弱く、粘性なし。近世陶磁器片混入。
- IIIb. オリーブ褐色土 (2.5YR4/6) ややしまり、粘性あり。
- IIIc. オリーブ褐色土 (2.5YR4/6) しまり弱く、粘性あり。マンガン混入。
- IVa. 灰色土 (5Y5/1) しまり弱く、粘性弱い。
- Va. オリーブ褐色土 (2.5YR4/4) ややしまり、粘性あり。
- Vb. オリーブ褐色土 (2.5YR3/3) しまり強く、粘性強い。
- Vc. 暗オリーブ褐色土 (2.5YR3/3) しまり強く、粘性強い。
- VI. にふい黄褐色土 (10YR5/4) しまり弱く、粘性弱い。無遺物。

第35図 小町遺跡トレーニング層図



第33図 小町遺跡調査地位置図



第34図 小町遺跡トレーニング配置図



写真32 小町遺跡調査前状況（西から）

9 春出遺跡（B地点）

所在地：玉名市中字北 200-1

調査原因：調査依頼（分譲地）

対象面積：550m²

調査日：令和元年 9月 4 日

調査者：蘿父雅史

調査地は、境川左岸の台地上に位置する標高約 15m の地点であり、玉名高校グラウンドの西側にあたる。現況は一部が駐車場として利用されていた。

敷地内に 4か所のトレンチを設定して、埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、基本土層は、I a 層が山砂を含む整地層、II b 層が碎石混じりの客土層、II 層が暗褐色粘性土層、III 層が黒褐色粘性土層、IV 層が褐色粘性土層（無遺物層）であった。いずれの層にも遺物はほとんど混入しない。

1・3・4 トレンチにおいて、現地表面の 70～80cm 下（IV 層上面）から遺構が検出された。1・3 トレンチで検出したのはピット群であり、特に 3 トレンチに多く集中しているが時期が明確ではない。

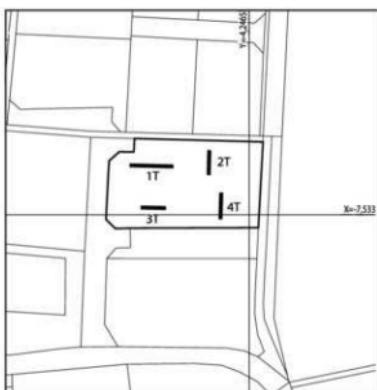
4 トレンチでは、縄文時代晚期の土器埋設遺構が 1 基検出された。土器は古闊式の深鉢とみられ、上部は削平を受け、輪切り状態であった。明確な底部は確認できなかったが、鉢の大きさに沿って土坑が掘り込まれ、掘えるように埋設されていたとみられる。このような埋設遺構は、市内において山田の高岡原遺跡、伊倉の宮の後遺跡など数か所で確認されている。

春出遺跡は、調査例が少なく遺跡の内容が不明確であった。これまで弥生時代後期の住居跡や中世の居館（中村館跡）などが確認されており、近世に建立された寺院も残っている。前掲の A 地点において、縄文時代早期の押型文土器が出土している事例からも、当遺跡は縄文時代以降から遺構が残存している可能性が考えられる。

工事の計画は、専用住宅 2 軒分の分譲地であったが、現在のところまだ具体化されておらず、建設までに至っていない状況である。



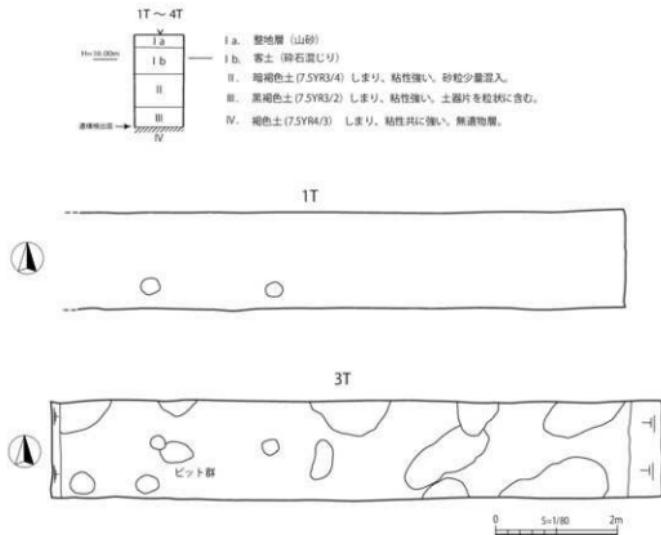
第 36 図 春出遺跡（B 地点）調査地位置図



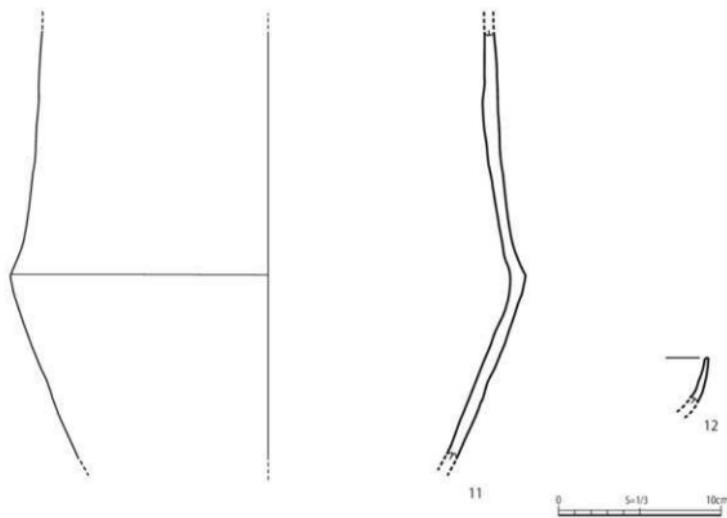
第 37 図 春出遺跡（B 地点）トレンチ配置図



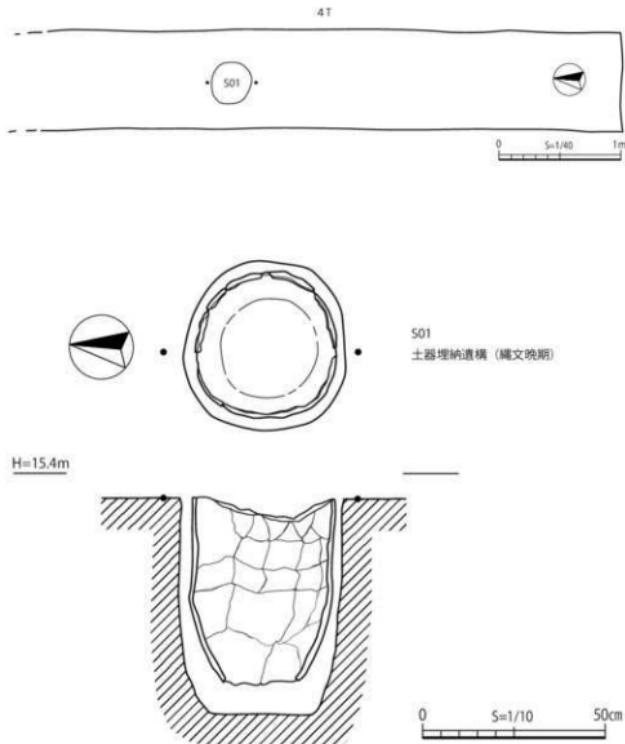
写真 33 春出遺跡（B 地点）調査前状況（北東から）



第38図 春出遺跡（B地点）トレンチ実測図



第39図 春出遺跡（B地点）出土遺物実測図



第40図 春出遺跡（B地点）4トレンチ遺構実測図



写真34 春出遺跡1トレンチ調査状況（西から）



写真35 春出遺跡4トレンチ埋設土器出土状況（北から）

10 片諭訪遺跡

所在地：玉名市片諭訪字屋敷 87-1

調査原因：共同住宅

対象面積：942.51m²

調査日：令和元年9月30日、10月1日（1回目）

令和元年10月7日（2回目）

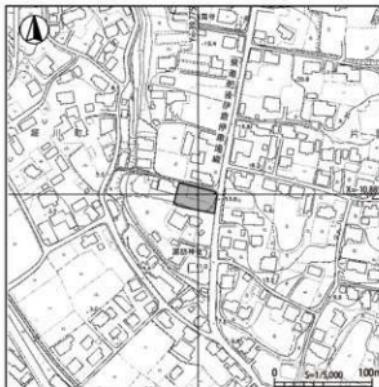
調査者：董父雅史

調査地は、菊池川左岸の台地西端に位置する標高約15mの地点にある。敷地内は以前から宅地化されているが、建物は既に解体され畠として利用されていた。

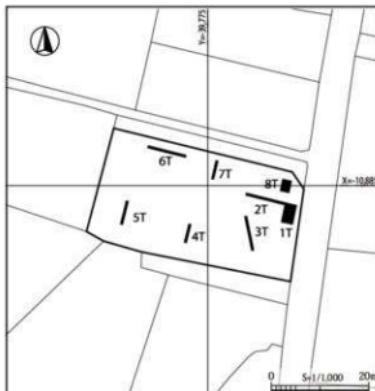
共同住宅の新築に伴って建物及び階段部分で掘削が生じるため、計8か所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。

その結果、基本層序はⅠ層が碎石等を含む表土層、Ⅱ層が整地層、Ⅲa層が現代の耕作土層、Ⅲb層が近世から近代の旧耕作土層、Ⅳ層が褐色粘性土層（無遺物層）であった。階段予定地に設定した1トレンチでは、東側の市道に向けて落ち込む溝を検出した。この溝は擾乱が著しく、当初遺構と判断するのが困難であったため、下層まで重機で掘削し、断面で溝と判断した。溝は南北方向に延び、現在の市道と併行しているものと想定される。2トレンチでは、中世の瓦器を含む大型の土坑、3.4.7トレンチでも多数のピットを検出した。これらの遺構は、現地表面から60～70cm下のⅣ層上面から検出される。その他の5.6.8トレンチからは近代以降の擾乱のみが認められた。一部近世以降の陶磁器を含む擾乱を検出したが、同時に貝殻が多量に含まれており、特にハイガイが多くかった。付近に「片諭訪貝塚」があることなどから、元は貝塚に伴う可能性がある。調査地の北側には中世の伊倉城跡も所在しており、過去の発掘調査で弥生時代の住居跡とポケット貝塚も検出されている。このようなことから、各トレンチで確認された中世の遺物を含む溝や土坑、ピットなどは伊倉城跡に関連する遺構とも考えられ、城跡の範囲も見直す必要性がある。

工事の内容は、共同住宅の新築工事であり、建物部分の基礎掘削深度は45cmであることから埋蔵文

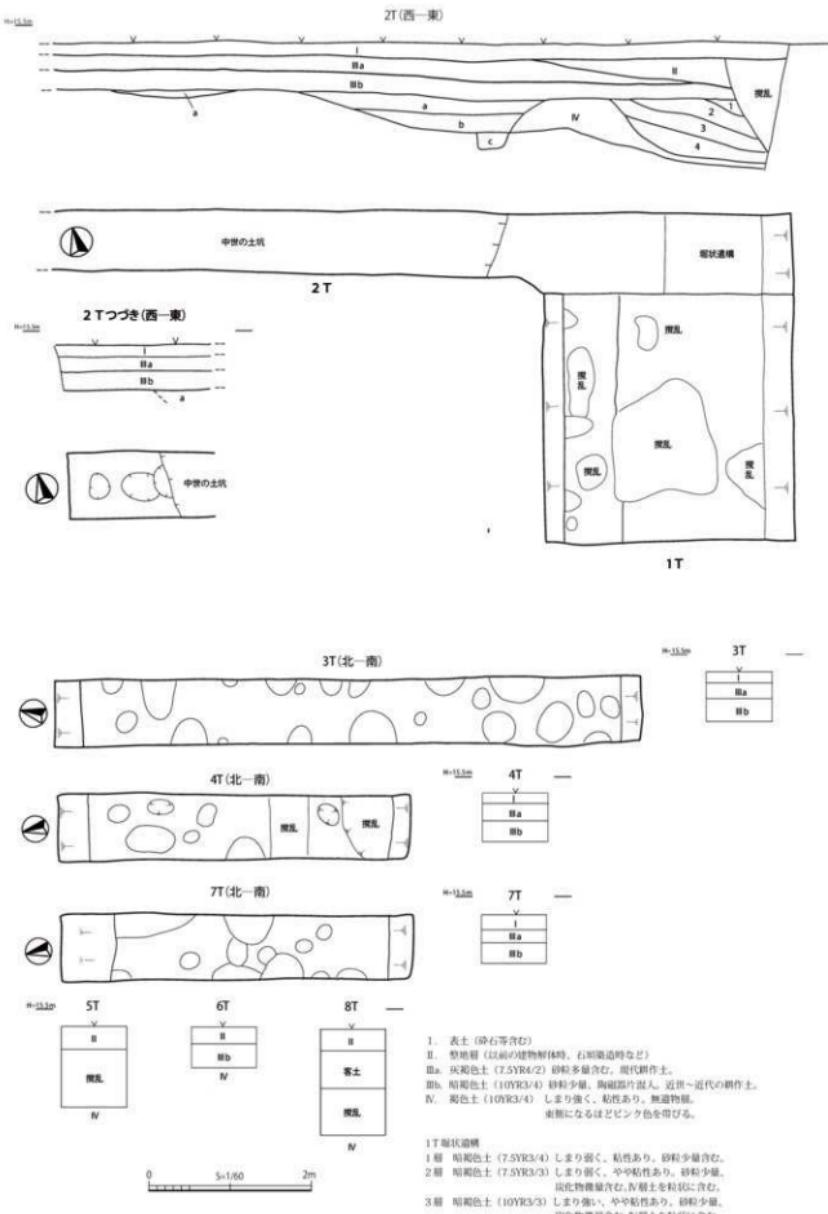


第41図 片諭訪遺跡調査位置図

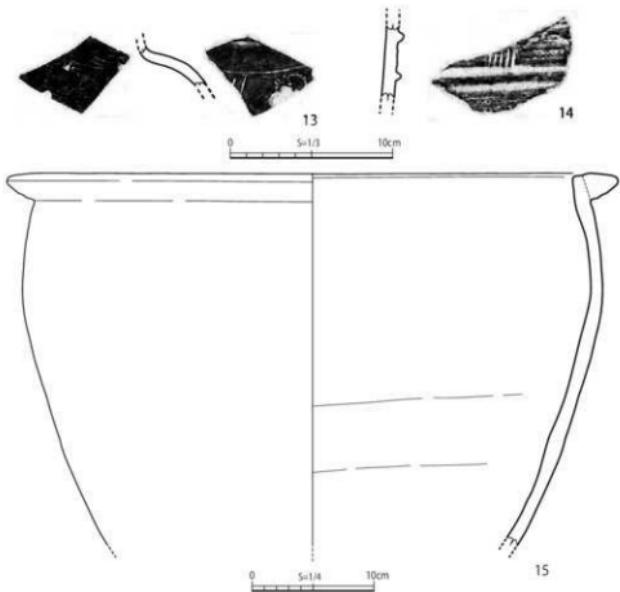


第42図 片諭訪遺跡トレンチ配置図

化財に対する影響はないものと判断される。階段部分で検出した溝は、ほぼ下層まで重機で掘削しているが、工事による掘削は、溝の底部までは及ばない。しかし、未調査の部分もあるため工事立会となつたが、いまだ階段部分の工事までに至っていない状況である。



第43図 片諱跡トレンチ実測図



第44図 片謫訪遺跡出土遺物実測図



写真36 片謫訪遺跡調査地遠景（北東から）



写真37 片謫訪遺跡調査地トレンチ掘削状況（北から）



写真38 片謫訪遺跡1 トレンチ調査状況（南から）



写真39 片謫訪遺跡4 トレンチ構造検出状況（北から）

11 東南大門遺跡

所在地：玉名市築地字南大門 2122-2,2123 外

調査原因：宅地造成（分譲地 7 区画分）

対象面積：2213.19m²

調査日：令和元年 11 月 7 日～8 日

調査者：蘿父雅史

調査地は、境川右岸の低丘陵上に位置する標高約 14m の地点にあたる。以前から宅地化され周囲は樹木が生い茂っている状況であったが、届出が提出された時点まで更地となっていた。

分譲地予定地内に 10 か所のトレンチを設定して確認調査を実施した。

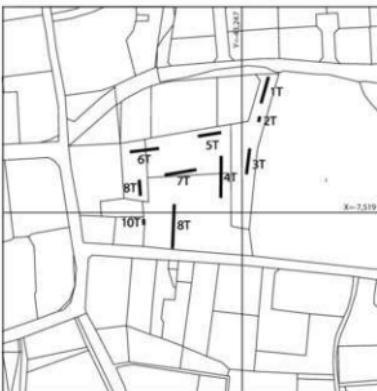
基本土層は、I a 層が解体時の整地層、I b 層が客土層、II 層が旧耕作土層、III 層が暗褐色粘性土層、IV 層が褐色粘性土層（無遺物層）であった。

調査の結果、敷地内は全体的に擾乱が著しい状況であり、近代以降における宅地化の際や既存建物解体時、樹木の抜根等によってかなり擾乱を受けている状況であった。6 トレンチの一部において、現地表の 45cm 下からピット 2 基を検出したが、他トレンチにおいても中世の土師皿小片をわずかに検出したのみである。掲載した遺物の 18 は、懶の把手であり敷地内の表採資料である。

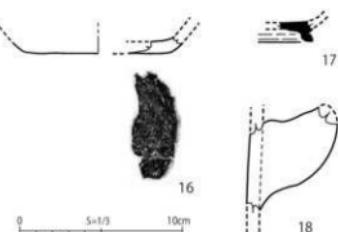
工事の内容は、7 区画分の分譲地に伴う道路及び擁壁工事である。主に掘削が生じるのは、南北 2 か所の進入路部分と、両脇の側溝及び集水溝、北側の擁壁部分である。このうち遺構が検出されたのは、北西側の 6 トレンチのみであるが、この地点については分譲地として売買が完了してからになる。よって、道路部分は擾乱が多く遺構は検出していないが皆無とはいえないため、工事立会となった。その後の立会時にも遺構は検出されなかった。



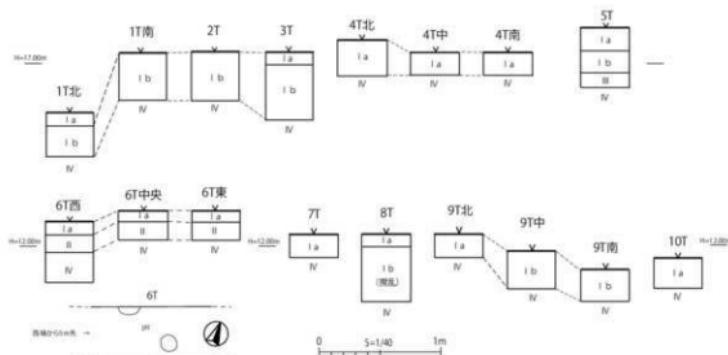
第 45 図 東南大門遺跡調査位置図



第 46 図 東南大門遺跡トレンチ配置図



第 47 図 東南大門遺跡出土遺物実測図



第48図 東南大門遺跡トレンチ柱状図



写真40 東南大門遺跡調査前状況（西から）



写真41 東南大門遺跡3トレンチ調査状況（北から）



写真42 東南大門遺跡6トレンチ調査状況（西から）



写真43 東南大門遺跡7トレンチ調査状況（西から）

12 東原遺跡（B地点）

所在地：玉名市築地字市場 103 番、106 番 1

調査原因：店舗

対象面積：2024.52m²

調査日：令和元年 11 月 26 日

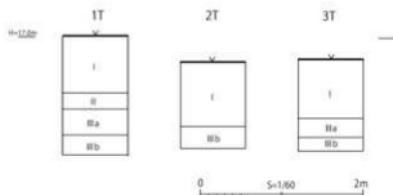
調査者：田熊秀幸

調査地は、境川右岸の低丘陵上に位置する標高約 17m の地点にあたる。周辺は、東側に大原遺跡、南側には下前原遺跡がそれぞれ隣接しており、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落跡が最も集中している地域である。

敷地内には以前店舗が建てられていたが、調査時は解体され更地となっていた。

建物予定地を中心にして 3か所のトレンチを設定して確認調査を実施した。基本層序は、Ⅰ層が旧建物の解体に伴う整地層、Ⅱ層が旧耕作土層、Ⅲ層が黄褐色から褐色粘性土層（基盤土）であったが、明確な遺構・遺物は認められず、全体的に著しい搅乱・削平を受けたものとみられる。

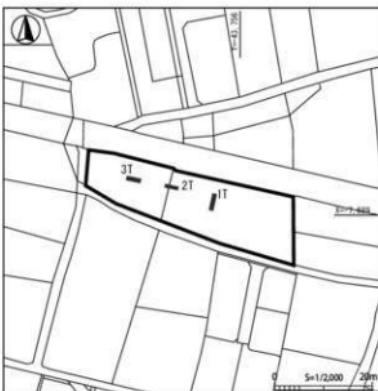
工事の内容は、店舗の新築工事であり基礎の掘削が深いが、確認調査の結果、埋蔵文化財が存在している可能性が低いと考えられることから慎重工事となつた。



第 51 図 東原遺跡 B 地点トレンチ土層柱状図



第 49 図 東原遺跡 B 地点調査位置図



第 50 図 東原遺跡（B 地点）トレンチ配置図



写真 44 東原遺跡（B 地点）調査状況（西から）

13 清源寺跡

所在地：玉名市高瀬93-1の一部、94-2

調査原因：共同住宅

対象面積：679.42m²

調査日：令和元年12月11日

調査者：董父雅史、田熊秀幸

調査地は、菊池川右岸の台地縁辺に位置する標高約7mの地点にあたる。この東側の高台には中世の保田木城跡があり、近世になると一帯は肥後五ヶ町の一つとして繁榮し、多くの寺院が建立された。西側には高瀬官軍墓地がある。

敷地内は、以前から宅地化されており、周辺と比較すると約1mも低くなっている。近年は碎石敷きの駐車場として利用されていた。

共同住宅の建物及び駐車場予定地で切土が発生するため、4か所のトレンチを設定して確認調査を実施した。

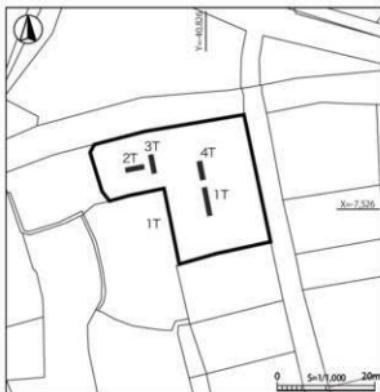
その結果、基本層序は、I層が現代の造成層、II層が暗赤褐色粘性土層（近世～近代）、III層が暗褐色粘性土層（遺物包含層）、IV層が褐色粘性土層（基盤土層）であった。III層以下は調査地の南側から北側へ傾斜しており、その傾斜に沿った落ち込みから、土師器片数点が出土した。この落ち込みは東西方向へ延びるため、保田木城跡の外堀もしくは道路状遺構の可能性も捨てきれないが、この調査区のみでは判断できない。また、4トレンチではIV層上面にて時期不明のピット2基を検出した。

掲載した遺物は3トレンチ下層から検出した古代の环である。古代の遺物は高瀬からは初めての出土である。

工事の内容は、共同住宅の新築である。建物基礎の最大掘削深度は45cmであり、I層（造成層）内に収まるため埋蔵文化財に対する影響はないものと判断された。しかし、駐車場部分については、切土範囲が概ねII層中に収まるものの、擁壁の基礎掘削の一部がIII層に及ぶ。よって、擁壁部分に関しては工事立会となったが、特に遺構は確認できなかった。



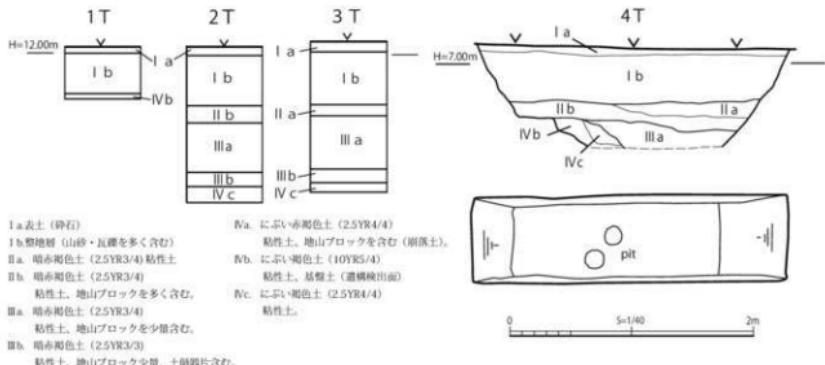
第52図 清源寺跡調査地位置図



第53図 清源寺跡トレンチ配置図



写真45 清源寺跡調査状況（北から）



第55図 清源寺跡トレンチ柱状図



第54図 清源寺跡出土遺物実測図



写真46 清源寺跡1トレンチ土層堆積状況（東から）



写真47 清源寺跡2トレンチ調査状況（西から）



写真48 清源寺跡3トレンチ土層堆積状況（東から）



写真49 清源寺跡4トレンチ調査状況（北東から）

14 塚原遺跡

所在地：玉名市岱明町野口字塚原 665-1,663

調査原因：福祉施設運動場（調査依頼）

対象面積：1,191m²

調査日：令和2年3月2日～3日

調査者：蟹父雅史

調査地は、境川右岸の台地上に位置する標高約17mの地点にある。同じ台地上の西側には、弥生時代中期の年の神遺跡、北側には弥生時代後期を中心とした木船西遺跡及び大原遺跡が隣接している。

塚原遺跡は、市道岱明玉名線建設に伴い発掘調査が実施されており、弥生時代中期の県内最大級の円形竪穴建物跡、環濠の一部、甕棺墓群や古墳時代の遺構などが検出されている。

調査依頼に基づき、2地点において合計5か所のトレンチを設定し確認調査を実施した。

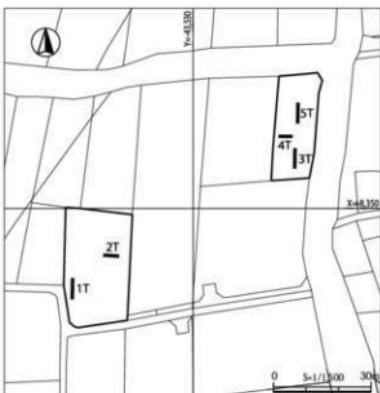
その結果、基本土層は、I層が現代の耕作土層、II層が暗褐色粘性土層、III層が黒褐色粘性土層（遺物包含層）、IV層が褐色粘性土層（無遺物層）であり、IV層上面から遺構が検出された。III層が遺物包含層と考えられ、少量であるが弥生土器片を含む。遺構は、すべてのトレンチから検出され、大きさから土坑やピットとみられるが、掘削は行っていないため明確な時期は不明である。

当調査地（665-1）の北東端には、昭和40年代にこの一帯で開田造成工事が実施されたことを示す記念碑が建っている。よって、大規模な攪乱を受けている可能性も想定されたが、以上のような結果から西側の岱明玉名線建設に伴う発掘調査地区と同様に遺構群は、この範囲まで広がり残存していることは確実である。

工事の内容は、福祉施設に伴う運動場という計画ではあったが、現段階でまだ具体化されていない。将来的には宅地化される場合もあるが、いずれにしても遺物包含層の深度（地表から約50cm下）まで掘削が及ぶ工事の場合は、発掘調査となる可能性が高い。



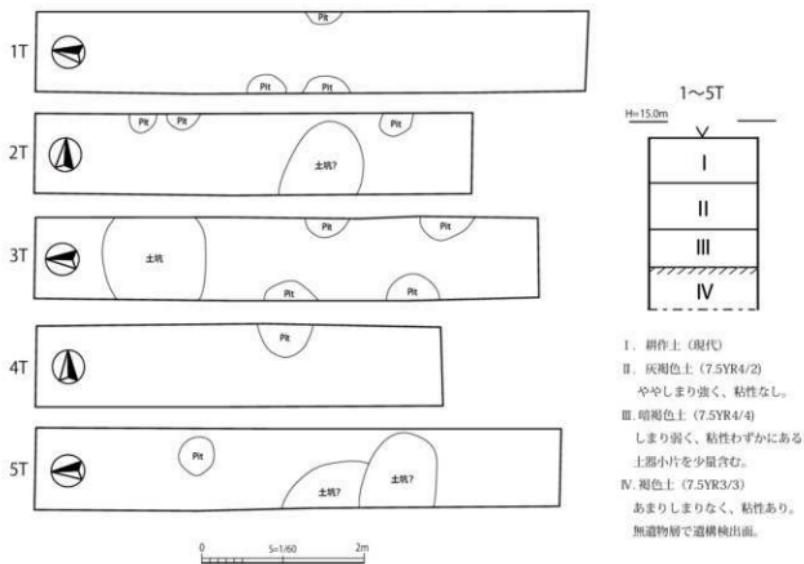
第56図 塚原遺跡調査地位置図



第57図 塚原遺跡トレンチ配置図



写真50 塚原遺跡1・2トレンチ調査状況（南から）



第 58 図 塚原遺跡トレンチ実測図



写真 51 塚原遺跡 665-1 番地調査状況（北から）



写真 52 塚原遺跡 665-1 番地調査状況（北から）



写真 53 塚原遺跡 663 番地調査状況（東から）



写真 54 塚原遺跡 5 トレンチ遺構検出状況（南から）

15 幸長寺遺跡

所在地：玉名市岱明町浜田字八反端 101-1

調査原因：宅地造成（貸家住宅 7 棟分）

対象面積：2040m²

調査日：令和 2 年 3 月 11 日

調査者：蟹父雅史

調査地は、境川右岸の低丘陵上に位置する標高約 12m の地点にあたり、西側に接する市道とは約 2m の比高差がある。当該地は以前から麦畑として利用されていた。

当遺跡内の南東側には中世の幸長寺跡があり、平成 26 年度の確認調査では L 字型に巡る想定される溝状遺構跡や柱穴跡が検出され、溝の内部から中世期の常滑焼（甕の口縁部）が出土している。また、南西側には寿福寺が所在する。

敷地内では、主に切土が計画されている進入路部分の 2か所にトレンチを設定して確認調査を実施した。

その結果、基本土層は I 層が現代の耕作土層、II 層が灰褐色砂質土層（土地改良に伴う整地層）、III 層が暗褐色粘性土層、IV 層が黒褐色粘性土層、V 層が褐色粘性土層（無遺物層）であった。いずれの層にも遺物の混入は認められず、明確な遺構も確認されなかった。根穴を検出したのみである。

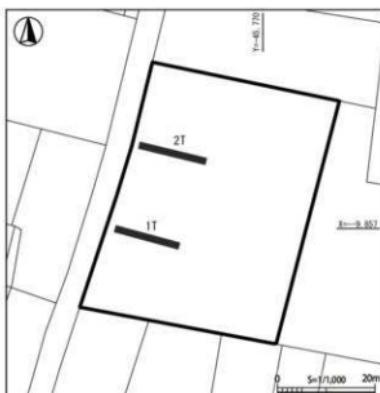
工事の内容は、宅地造成であるが、各建物部分の基礎掘削深度は 40cm で、I ~ II 層内に納まる。また、進入路部分は V 層下位まで切土が発生するが、確認調査の結果、埋蔵文化財は確認されなかつたため慎重工事となった。



写真 55 幸長寺遺跡調査地状況（北から）



第 59 図 幸長寺遺跡調査位置図



第 60 図 幸長寺遺跡トレンチ配置図



第 61 図 幸長寺遺跡トレンチ柱状図

第2表 令和元年度出土遺物観察表

実測 遺物番号	遺物名	出土地点	種別	器種	特殊部位	口径	深さ	径	高さ	法面		器面調整		内面		外面		内面		施成 備考	
										直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	
NO.1	肩油野井遺跡	1 T / 頂丸	外生土器	壺	口縁部	—	—	—	(3.9cm)	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.2	玉名平野遺跡	1T 酒込土器	外生土器	壺	肩部	肩部	—	—	(9.0cm)	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.3	玉名平野遺跡	1T 上層	瓦	斜平瓦	端部	肩さき (6.6cm)	幅 (5.1cm)	厚さ (2.0cm)	—	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.4	玉名平野遺跡	後削土トレンチ II層内	瓦質土器	壺	口縁部	—	—	(3.4cm)	—	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.5	光寺寺	2T 1 層	近代鉢形	缸	—	4.6cm	直角形	1.0cm	1.6cm	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.6	光寺寺	2T 2 層	近代鉢形	碗	全体	1/2	7.2cm	3.1cm	5.8cm	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.7	光寺寺	2T 2 層	近代鉢形	碗	全体	1/2	7.0cm	3.0cm	5.4cm	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.8	光寺寺	2 層	近代鉢形	碗	全体	1/2	6.8cm	5.0cm	5.5cm	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.9	光寺寺	2 T 1 b 層	ガラス製品	ビン	兜形	1.5cm	4.3cm	8.9cm	—	—	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.10	香出A遺跡	土坑 1 層	埴文土器	鉢	肩部	—	—	(3.8cm)	押文模	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.11	香出B遺跡	4 T / 5 - 1 V字下部	埴文土器	壺	口縁部	—	—	(26.4cm)	直角形の2角 肩部が削り取られ 直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良	
NO.12	香出B遺跡	3 T 川原下位	瓦	瓦	肩部	—	—	(2.7cm)	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	良
NO.13	片瀬跡遺跡	2T 中層	瓦質土器	茶釜	肩部	—	—	(2.5cm)	ミガキ	ハサメ	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.14	片瀬跡遺跡	1T 中層	瓦質土器	火鉢	肩部	—	—	(4.4cm)	ナデ	ナデ	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.15	片瀬跡遺跡	1T カクラン層内	土桶	壺	口縁部～肩部	50.2cm	—	(30.5cm)	直角形の2角 肩部不明	ナデ	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.16	東前大門遺跡	4T カクラン内	土桶	壺	底部	—	9.0cm	(11.1cm)	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	良
NO.17	東前大門遺跡	表段	土桶	洗面器	杯	把手	—	—	(6.5cm)	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	良
NO.18	東前大門遺跡	表段	土桶	瓶	—	—	—	—	—	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	直角形	良
NO.19	萬葉寺	3T 雨落水槽上	土桶	高台付舟	底部	—	—	7.9cm	(3.8cm)	圓輪ナデ	ナガ。ミガキ	ナデ	良								
NO.20	萬葉寺	3 T 雨落水槽上	黑色土器	壺	底部	—	—	7.7cm	(1.5cm)	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	圓輪ナデ	良

報告書抄録

ふりがな	たまなしないいせきちょうさほうこくしょ						
書名	玉名市内遺跡調査報告書 13						
副書名	令和元年度の調査						
巻次							
シリーズ名	玉名市文化財調査報告						
シリーズ番号	第 50 集						
編著者名	齋父雅史 江見恵留						
編集機関	玉名市教育委員会						
所在地	〒 865-8501 熊本県玉名市岩崎 163						
発行年月日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m)	調査原因
ねじぎざわのなかいせき 崩崎野中遺跡	玉名市岱明町崩崎	43206 570	32° 54' 47"	130° 29' 37"	2019 年 4 月 ~ 2020 年 3 月		個人住宅
たまないへいせき 玉名平野遺跡群・両迫間日渡遺跡	玉名市玉名・両迫間	43206 483 - 138	32° 56' 24"	130° 34' 20"			調査依頼
よしまるまえいせき 吉丸前遺跡	玉名市寺田	43206 491	32° 55' 26"	130° 34' 58"			道路
こうそんじ 光尊寺	玉名市高瀬	43206 564	32° 55' 48"	130° 33' 53"			納骨堂
ひしづらいせき 東原遺跡 (A 地点)	玉名市築地	43206 171	32° 55' 48"	130° 31' 51"			店舗
はるでいせき 春出遺跡 (A 地点)	玉名市中	43206 182	32° 55' 49"	130° 32' 32"			共同住宅
いみどりういせき 今見堂遺跡	玉名市築地	43206 150	32° 55' 46"	130° 31' 43"			消防署
こまちういせき 小町遺跡	玉名市上小田	43206 436	32° 57' 26"	130° 35' 36"			道路
はるでいせき 春出遺跡 (B 地点)	玉名市中	43206 182	32° 55' 52"	130° 32' 45"			調査依頼
かたすれいせき 片瀬訪遺跡	玉名市片瀬	43206 321	32° 54' 04"	130° 34' 29"			共同住宅
ひがしなんじゆもんいせき 東南大門遺跡	玉名市築地	43206 162	32° 55' 53"	130° 32' 14"			分譲地
ひがばねいせき 東原遺跡 (B 地点)	玉名市築地	43206 171	32° 55' 47"	130° 31' 55"			店舗
せづらんじあと 清源寺跡	玉名市高瀬	43206 214	32° 55' 53"	130° 33' 48"			共同住宅
つばらういせき 塚原遺跡	玉名市岱明町野口	43206 470	32° 55' 26"	130° 31' 59"			調査依頼
こうちょうういせき 幸長寺遺跡	玉名市岱明町浜田	43206 597	32° 54' 36"	130° 30' 38"			分譲地
主な遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
光尊寺	寺院跡	近世	建物跡 (土間跡)	近世陶磁器			
春出遺跡 (B 地点)	包藏地	縄文時代晚期	埋設土器	縄文土器 (深鉢)			
片瀬訪遺跡	包藏地	中世	溝・土坑・ピット				
清源寺跡	寺院跡	古代・中世	ピット	土師器 (环)			
塚原遺跡	包藏地	弥生時代	土坑・ピット				

玉名市文化財調査報告 第50集
玉名市内遺跡調査報告書 13

— 令和元年度の調査 —

令和3年3月15日印刷

令和3年3月26日発行

編集発行

玉名市教育委員会

〒 865-8501 熊本県玉名市岩崎 163

TEL 0968-75-1136 • FAX 0968-75-1138

印 刷

株式会社 有明印刷

〒 865-0022 熊本県玉名市寺田 123-1

TEL 0968-73-2055 • FAX 0968-72-3504

